

## 事例2 ICT端末を活用して「地域の人々との関わり」を見える化し、考えを広げ深める事例

○学年 第5学年

○主な内容 内容「A家族・家庭生活」(3)「家族や地域の人々との関わり」ア(イ)イ

○事例のポイント

- ①地域の人々との関わりをマップにすることで、「誰と」「どのような関わりがあるか」に目を向けて考えることができるようにする。
- ②題材の導入と終末で地域の人々との関わりについて考えることで、題材を通して学んだことを生かして考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ③デジタル付箋と共有ボードを活用することにより、グループ毎の考えを共有しやすくする。

1 題材名 「共に生きる地域での生活～一年生とわたしたち～」 内容A(3)ア(イ)イ 第5学年

### 2 題材について

(1) 児童について（省略）

(2) 題材について

本題材は、「A家族・家庭生活」の(3)家族や地域の人々との関わり」における幼児など地域の人々との関わりに関する題材である。地域の人々との関わりについて、課題をもって、地域の人々との協力の大切さを理解し、地域の人々との関わりに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、よりよい関わりを考え、工夫することができるようにすることをねらいとしている。ここでは、地域の人々との関わりとして、低学年の児童（一年生）と交流することを通して、異なる世代の人々との関わりについて扱っている。

高学年となった児童は、縦割り班活動や通学班などの場面で低学年に関わることが多くなっている。低学年と積極的に関わることができる児童もいるが、どのように関わったらよいか分からないまま、一緒にいるだけにとどまっている児童もいる。来年度は、6年生として縦割り活動の中心となり、低学年に関わる機会も多くなるため、第5学年で本題材を設定した。本題材を通して、「一年生とよりよく関わるためには、どうしたらよいだろうか。」という課題を設定し、総合的な学習の時間「みんなにここ交流会」に向けての一連の活動を通して、本題材で育てたい資質・能力に見方・考え方「協力」の視点で迫るようにしていく。また、本題材は、中学校学習指導要領家庭分野内容A(2)「幼児の生活と家族」、イ「幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること」にも発展していく内容であると考え。

編 P122 指導計画作成  
の留意事項(6)(8)

(3) 指導について

指導に当たっては、まず第1時で「生活かかわりマップ」を作成する活動を通して自分の生活と地域の人々との関わりを振り返る。生活をよりよくするための地域の人々の様々な関わりに気付くことで、地域の人々の協力や支えがあって自分たちの生活が成り立っていることが具体的な場面から理解できるようにする。そして、地域の人々の中でも幼児や低学年の児童に目を向け、第2時につなげていきたい。第2時では、身近な幼児・低学年として、一年生との関わりについて自分の生活を振り返り、問題を見いだして課題を設定する。ここでは、共通の課題「一年生とよりよく関わるためには、どうしたらよいだろうか。」を提示し、これまでの一年生との関わりから個人の課題を設定する。これまでの関わりや、自分たちが一年生のときに高学年がどのように関わってくれていたかを振り返ることで、よりよい関わり方について考えることができるようにする。第3時では、「みんなにここ交流会」の計画を立てる。交流会での内容はグループごとに考え、役割を分担する。その後、第2時で設定した自分の課題に合わせてどんな関わり方の工夫をするか考えるようにする。また、事前に一年生の先生にインタビューをしたり、一年生の休み時間の様子を観察したりして、一年生の実態を知り、計画に生かすことができるようにしたい。実践活動の準備や交流会は、総合的な学習の時間で行う。第4・5時では、交流会に向けた一連の活動について、計画や実践を通して考えたことなどを発

表し合う場を設定する。発表の際は、ICT端末などを活用しながら、自分たちが工夫した点について具体的に説明できるようにしたい。計画を評価・改善した後、第2時に設定した自分の課題について振り返る。そして、今回の学習活動を生かして、これからの生活でどのように地域の人々（幼児・低学年）と関わっていくか考え工夫することができるようにしていきたい。

### 3 題材の目標

- (1) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。 〈知識及び技能〉
- (2) 地域の人々（低学年の児童）とのよりよい関わりについて問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 家族の一員として、生活をよりよくしようと、地域の人々（低学年の児童）との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。	地域の人々（低学年の児童）とのよりよい関わりについて問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、地域の人々（低学年の児童）との関わりについて、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

### 5 題材の指導と評価の計画（5時間扱い）

[1] 地域の人々との関わりを見つめよう	本時 1時間
[2] 一年生との関わり方を工夫しよう～「みんなにここ交流会」を開こう～	2時間
[3] 地域の人々とのよりよい関わりについて考えよう	2時間

小題材	時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の人々との関わりを見つめよう	1（本時）	○家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。 ・「生活かかわりマップ」を作り、自分と地域の人々との関わりを振り返る。 ・地域の取組について知り、地域の人々の思いについて考える。	①家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解している。 （ワークシート、発言）		

一年生との関わり方を工夫しよう 「みんなにここ交流会」を開こう	2	○一年生との関わりについて問題を見いだして、課題を設定することができる。 ・通学班や縦割り班活動などこれまでの一年生との関わりを振り返る。 ・一年生との関わりについて問題を見だし、課題を設定する。 ・一年生と今の自分を比べ、気付いたことについて話し合う。 ・一年生の先生にインタビューしたり、一年生の休み時間の様子を動画に撮ったりして調べる。		①一年生との関わりについて問題を見いだして課題を設定している。 (計画・実践記録表、行動観察)	①一年生とのよりよい関わりに関する課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 (ポートフォリオ、行動観察)
	3	○交流会での一年生との関わり方について、実践の計画を考え、工夫することができる。 ・グループで交流会のプログラムや各自の分担を決める。 ・各自の役割や関わり方の工夫について考える。		②一年生とのよりよい関わりについて、実践に向けた計画を考え、工夫している。 (計画・実践記録表、行動観察)	②一年生とのよりよい関わりに関する課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 (ポートフォリオ、行動観察)
実践活動：「みんなにここ交流会」の実践（総合的な学習の時間）					
地域の人々とのよりよい関わりについて考えよう	4・5	○一年生とのよりよい関わりについて、発表し合い、実践を評価・改善する。 ・交流会を振り返り、計画・実践記録表にまとめる。 ・写真や動画を見せながら、実践発表会で報告し合う。 ・よりよく関わるためにどうしたらよいかを考える。 ・第1時の学習を振り返り、地域の人々との関わりをよりよくするために、これから自分ができることを考える。		④一年生とのよりよい関わりについての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 (計画・実践記録表、行動観察) ③一年生とのよりよい関わりについて、実践を評価したり、改善したりしている。 (計画・実践記録表)	③一年生とのよりよい関わりについて工夫し、実践しようとしている。 (ポートフォリオ、行動観察)

## 6 本時の学習指導（本時 1／5）

### (1) 目標

- ・家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。〈知識及び技能〉

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・）評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→）
5	<p>1 これまでの学習や生活を振り返り、本時の課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域…家庭生活の周りにある家族以外の人やもの、施設のこと。</li> <li>・学習課題の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科のこれまでの学習を振り返り、「自分、家族、家庭」を中心に生活について考えてきたことを確認する。</li> <li>・市内の行事の様子（写真）を示し、地域で生活することや活動している具体的な場面が想起できるようにする。</li> <li>・「地域」という言葉について確認する。</li> </ul> <div data-bbox="523 571 1406 689" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題 わたしたちは、だれとどのように関わっているのだろうか。</p> </div>
20	<p>2 グループで「生活かかわりマップ」を作成する。</p> <p>①「地域で生活している人」を付箋（黄）に書く。</p> <p>②①で書いた人たちと「どんなときに関わるか」を付箋（ピンク）に書いて関係している人の近くに貼る。</p> <p>③他に「地域で行われていること」があれば、付箋（ピンク）に書く。</p>	<div data-bbox="603 712 1406 875" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>事例のポイント① 地域の人々との関わりをマップにすることで、「誰と」「どのような関わりがあるか」に目を向けて考えることができるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関わりについて考えるために、グループで「生活かかわりマップ」を作成することを伝える。</li> <li>・活動の流れについてスライドを用いて説明する。</li> <li>・①では、年齢や何をしている人かなどに着目して考えを広げることで、異なる世代の人々（幼児や高齢者など）が共に生活していることに気付くことができるようにする。</li> <li>・②では、いつ、どこで、何をするときに関わっているのかに着目して考えを広げることで、地域の人々が共によりよい生活のために関わっていることに気付くことができるようにする。</li> </ul> <div data-bbox="544 1283 1401 1630" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>事例のポイント③ デジタル付箋と共有ボードを活用することにより、グループ毎の考えを共有しやすくする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な年齢の人々との関わりやいろいろな場面での関わりを見つけたグループを取り上げて、考えを共有できるようにする。</li> </ul>
10	<p>3 地域の取組について知り、地域の人々の思いについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報誌の記事「町内会の活動紹介」を示し、自分たちの生活と地域の人々との関わりについて知ることができるようにする。</li> <li>・マップ作りの活動や町内会の記事を振り返り、地域がこのような関わりや活動をしている理由や思いについて考え、ワークシートに書くことができるようにする。</li> </ul>

10	4	<p>本時の学習をまとめ、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(例) わたしたちは、<u>家族だけでなく、地域の人々と協力し、助け合いながら、よりよい生活を送ることができるようにしている。</u></li> <li>・本時の学習を振り返って考えたことや努力したことについて書く。</li> </ul>	<p>◇家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり、地域の人々との協力が大切であることを理解する。</p> <p>【知識・技能】① (ワークシート、発言)</p>
			<p>おおむね満足できる状況 (B)</p> <p>家庭生活をよりよくするために、地域の人々が関わり合っていることが分かり、地域の人々と関わることの大切さについて理解している。</p> <p>→「生活かかわりマップ」を振り返り、具体的な場面からどうしてそのような関わりがあるのか考えることができるようにする。</p>

・本時の学習をまとめる。

・これまでの生活を振り返り、自分は地域の人々とどのように関わってきたかを考え、ワークシートに書くことができるようにする。

事例のポイント②

題材の導入と終末で地域の人々との関わりについて考えることで、題材を通して学んだことを生かして考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

・本時の振り返りを書くようにする。

・地域には、幼児や高齢者など、様々な人々が生活していることから、次時から一年生との関わり方を考え、工夫することを通して、地域の人々とのよりよい関わりについて学習していくことを確認する。

## 7 学習評価の具体例


<ワークシートの一部>

共に生きる地域での生活～1年生と仲良くなる～①

5年 組 番 名前

わたしたちは、だれとどのように関わりながら生活しているのだろうか。

- 「地域」とは
  - …家庭生活の周りにある家族以外の人やもの、しせつのこと。
- グループで「生活かかわりマップ」を作ろう(共有ボード)



- ①地域で生活している人(黄色)
- ②どんなときに関わるか(ピンク)

- 地域の人びとは、どんな思いや理由があって、このような関わりや活動をしているのだろうか。

<自分の考え>

自分たちの町や市など地域の生活をよりよくするために活動していると思います。そのために、協力したり助け合ったりしているのだと思います。

【知識・技能】①

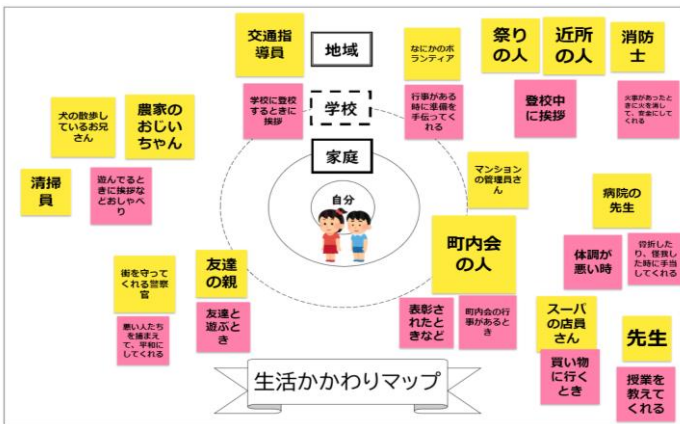
※「十分満足できる」状況 (A) と判断した児童の具体的な例

自分たちの町や市など地域をきれいに  
して快適に過ごせるようにしたり、災害  
などに備えて安心・安全に生活できるよ  
うにしたりするために活動していると思  
います。そのために、協力したり助け合  
ったりしているのだと思います。

地域の人々との協力が大切であることを理解し、家庭生活を「快適・安全」などの視点で捉えて、「よりよい生活」の場面について具体的に記述していることから、「おおむね満足できる」状況 (B) を上回る「十分満足できる」状況 (A) と判断した。

## 8 指導の実際

①地域の人々との関わりをマップにすることで、「誰と」「どのような関わりがあるか」に目を向けて考えることができるようにする。



「よりよい関わり」について考えていくためには、自分が生活の中で地域の人々とのように関わってきたかについて具体的に「相手」や「関わり」を捉えることが大切である。

「誰と」(相手) や「どのような関わり」といった視点から地域の人々との関わりをマップにして見える化し、考えを広げることによって、地域の人々の協力や支えがあって自分たちの生活が成り立っている場面を具体的に想起できるようにした。

②題材の導入と終末で地域の人々との関わりについて考えることで、題材を通して学んだことを生かして考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

### 【第1時】題材の導入

- これまで、自分は地域にどのようにかかわってきたらうか。

・会ったらあいさつしている  
・お祭りでゴミひろいをした

### 【第5時】題材の終末

- これからの生活でどのようにいかしていきたいか、考えよう

・たれにでもやさしく、分かりやすく説明したり、自分だけのことでなく、みんなのことを考える  
・たくさん話しかける  
・なれてきたら話し方をかえる  
・あいさつする

第1時で、具体的な地域の人々との関わりについて想起した後、終末で、自分はどのような関わりをしていたのか、これまでの生活を振り返る場面を設定する。

そして、地域には、幼児や高齢者など、様々な人々が生活していることから、第2時から是一年生との関わり方に焦点を当てて考え、工夫し、実践することを通して、地域の人々とのよりよい関わりについて学習していく。

第5時の終末では、今一度地域の人々との関わりに目を向け、これまでの実践で学んだことを自分の生活

に結び付けて、これからの生活でどのように生かしていきたいか考える場面を設定する。

このように「これまでの地域の人々との関わり」→「一年生との関わり(実践)」→「これからの地域の人々との関わり」と学びが結びつくように題材を構成していく。

③デジタル付箋と共有ボードを活用することにより、グループ毎の考えを共有しやすくする。

吉田みゆき  
11月5日(金)  
「生活の中で地域の人々とのように関わっているか考えよう」

【「生活かかわりマップ」6年生版】をグループで作ろう  
①自分たちの地域で生活している人を付箋(黄)に書いて貼る。  
②①で書いた人たちとどんなときに関わるか考え、付箋(ピンク)に書いて関係している人の近く貼る。  
③他に地域で行われていることがあれば、付箋(ピンク)に書いて貼る。

1・2・3班「生活かかわり...」  
Google Jamboard

4・5・6班「生活かかわり...」  
Google Jamboard

7・8班「生活かかわりマ...」  
Google Jamboard

9・10班「生活かかわり...」  
Google Jamboard

ICT端末を活用して、共有ボード上で「生活かかわりマップ」を作成する。共有ボードを活用し、グループで作成することで、友達から具体的な場面を広げやすくする。また、グループ毎の考えを共有する際、児童が自分のICT端末で他のグループの考えを効率的に共有することができ、より多くの考えに触れる機会をつくることのできる。